

# **[ERG 2020 版] 緊急時応急措置指針**

## **容器イエローカードへの適用**

原書 [2020 Emergency Response Guidebook (ERG 2020)]

訳

東京大学名誉教授

田村 昌三

東京大学大学院新領域創成科学研究科准教授

阿久津 好明

産業技術総合研究所環境安全本部安全管理部次長

和田 有司

元東京大学技官

吉沢 二千六

編集 一般社団法人 日本化学工業協会

**日本規格協会**

## 謝 辞

初版の翻訳は当時の東京大学田村教授および田村研究室各位にお願いした。また、[ERG 2020 版] の監訳は東京大学田村名誉教授にお願いした。

なお、本書は米国運輸省 Dr. C. Ke のご厚意により許可をいただいた。特に感謝申し上げます。

## 改訂の序

この「緊急時応急措置指針」は、2017年7月に[ERG 2016版]を発行してから、3年が経ちました。

この間に、本書が提案している容器イエローカード（ラベル方式）制度は、化学業界を中心とした産業界および消防庁等の行政にますます認知されるようになっていきます。

本書の内容は、米国・DOTを中心に策定された原書である北米の「Emergency Response Guidebook」に基づいていますが、この原書が2020年に「2020 Emergency Response Guidebook (ERG 2020)」として改訂されました。そのため、これに沿って見直しを行い、本書を発行する運びとなりました。修正箇所には、危険物の削除、新規追加、指針番号の割当て変更、指針番号記載内容の更新等の修正を含んでいます。

危険物輸送時の安全対策に、本書が広く活用されることを期待しています。

2021年5月

一般社団法人 日本化学工業協会

# [ERG 2020 版] 緊急時応急措置指針

## 目 次

### A 緊急時応急措置指針と容器イエローカード

A1	緊急時応急措置指針	6
1	2020 Emergency Response Guidebook (ERG 2020)	6
2	緊急時応急措置指針の概要	6
A2	容器イエローカード（ラベル方式）	
1	容器イエローカード（ラベル方式）の概要	6
2	適用範囲と位置付け	7
3	本指針による容器ラベル作成方法	7
A3	国連番号の付け方（参考）	9
1	単一品（工業的純品）	9
2	混合物	10
3	装置・器具等	11

### B 緊急時応急措置指針

1	利用上の注意	12
2	国連／ID 番号順索引	19
3	物質名 50 音順索引	85
4	指針（指針番号順）	151